

「日々の理科」(第 2299 号) 2020, 10, 28

「晩秋の上高地紀行(4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



大正池から先は平坦な道続きで、たぶん電動アシスト自転車でなくても、快適に通行できる。この道は新緑の時期に何度か自転車で走ったが、実に爽快なサイクリングができる。現在の上高地では、エリア内の移動は、徒歩とタクシーしかないの、自転車通行帯をつかって、貸自転車を提供したら良いと思った。もともと環境保全のために自家用車の通行を禁止にしたのだから、最も環境にやさしいはずの自転車を、もっと見直すべきだと思った。



10分ほど快適なサイクリングのあと、上高地帝国ホテル前に着く。森の中にある、赤い屋根の山小屋風のホテルだ。予約が困難なことで有名なホテルである。私は最初、両親の為に早々と5月中に予約を入れていた。しかし、ここは上高地中心部からはずれているので、もっと河童橋に近いホテルに変更した。5月の日本は旅行自粛中だったので、容易に予約がとれたのだ。



スマホの「自撮り」が苦手なので、帝国ホテルのロゴに反射した自分の姿を撮っておいた。これで「確かに上高地に行きましたよ!」という証拠になった。



上高地のバスターミナルの右側には、自転車置き場がある。ここから先は、ホテルや山小屋(徳沢園や横尾山荘)の許可車以外は入れない。自転車もここまでの、そのことは、釜トンネルの入口に常駐している監視員の方にも念を押された。しかし、自転車は「軽車両」なので、法律的な規制はない。禁を破って、どんどん奥に自転車が入っているらしい。困ったものだ。



ここまで乗っても、自転車の電池容量は5分の1しか減っていなかった。なかなか性能がいい自転車だ。